

令和7年度第5回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和7年11月7日（金） 午後3時00分～午後5時00分
開催場所	滝川市役所8階 大会議室
出席状況	<p>【委員】</p> <p>出席：高瀬委員長、長澤副委員長、金子委員、松田委員</p> <p>欠席：板谷委員、大崎委員、山西委員</p> <p>【事務局】</p> <p>くらし支援課 田上課長、種田課長補佐、米内係長、目黒主任級主事、岡村事務補</p>
議事内容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書について【資料1】 ※事務局より「滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書」について報告</p> <p>3 協議事項 ①市長への提言書の提出について ※事務局より「市長への提言書の提出」について説明 ※委員より市長への提言書の提出を委員長と副委員長よりすることを承認</p> <p>協議事項 ②第3次滝川市環境基本計画について 第3次滝川市環境基本計画ワークショップ前の参考としての前回の振返りの資料説明について【資料2】【資料3】 ※事務局より【資料2】【資料3】について説明 第3次滝川市環境基本計画ワークショップ【資料4】 ※事務局より【資料4】について説明 前段で説明した資料を参考とした上で、手法・施策の具体化、目標（フレーズ）出しするためのアプローチとして、ワークショップ方式で行うことを説明。委員4名を1グループとして、①滝川市が取るべき手法・施策（滝川市のあるべき姿・めざす姿になるために、何をすべきか、どう達成すべきか） ②滝川市環境基本計画における目標（計画に盛り込むべきフレーズ）について意見を出し合ってもらふこととする。</p> <p>グループ協議内容</p> <p>①滝川市が取るべき手法・施策 委員より、手法・施策は、これまでのワークショップとは違いクリエイティブなところであることから、これからの方向性やまとめ上げる文章について、事務局で、これまでの協議の中から、ネタを拾い出し、計画に盛り込んでいくこと、また、既存の項目に対して事業の拡張や積み上げた方が良いとの話になった。 ※ワークショップについて、委員が考えている環境問題に対しての改善方法に関して、意見を出していただく方法に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンデイや丸加高原クリーン大作戦に熱心に参加している市民がいるので、市民にとって取組が自分事になることで、日常の活動につながる。 ・ボランティア袋を知らない人がおり、袋やクリーンデイについて説明をするだけで取り組んでくれる市民もいる。また、実際に取り組んでいる市民もいることから、広報のPRでそういった市民を紹介することで、広報を見た方で活動を始める方や続ける方が増える。 ・ボランティア袋は、近隣市町にない滝川市ならではのものだと思うのでPRをした方が良い。 ・市民が活動している内容を広報で紹介することでやりがいにつながる。推薦方式などで、人知れずごみ拾いをするような隠れた功労者にスポットを当てたりするのも1つの手だと思う。 ・土木課で配布している落ち葉を回収するための袋を知らない人が多いので、普及することで、街路樹への不満が減るのではないかな。 ・市でロードスイーパーを走行するときに、事前に落ち葉を掃いて道路へ出して

おいでもらえば良い。

- ・川についての学習をしていくために、川の科学館を活用をしていく。
 - ・割り箸は間伐材を活用しているので、割り箸を使用するのは環境に良いのではないか。
 - ・車において全体的な化石燃料の使用量とEV車を普及するための発電所の建設・維持コストなどかかるトータルコストを考える必要がある。割り箸もそうだが、素材そのものは良いかもしれないが、それを加工するためのエネルギーのロスに対してバランスを考える必要がある。
 - ・滝川は石狩川と一番大きな支流である空知川の合流点であることから、川のイメージがある。川があることを誇りに思えるような何かや、川と触れ合う時間や取組があれば良い。
 - ・石狩川は大きすぎるので、逆に遠い存在になっている。小さい川ならできる川に入って遊ぶという経験が少ない。石狩川の河畔林を歩いたり、河畔林での漂流物探し、季節ごとの自然や生き物の恩恵などを楽しみ、自然系のアクティビティを学べる機会があると良い。
 - ・ソーラーパネルは景観保全という面でどうなのか。農家など使用していない土地があれば、売ってしまおうと考える農家もいると思う。パネルによる光の反射など苦情につながったという話もあるので、ソーラーパネル設置に対する規制を考えても良いのではないか。水源涵養林でも個人所有地にあるからこそ伐採してしまい水害につながるという可能性もあるので、環境に係わるセクションとして携わっても良いのではないか。
 - ・地球環境から見れば、ソーラーパネルはCO2削減に有効であるが、耐用年数や電気の買い取り価格の問題が出ている。ソーラーパネルについて15年や20年で取り巻く状況が変化していくのなら、先に規制をかけた方が良いのではないか。
 - ・ソーラーパネルについてマイナスの印象が大きい。発電量も少なく一般の人達にとって恩恵が感じにくい。ソーラーパネルについても学ぶべき事が多い。環境に良いとされるものでも慎重に判断するべき。
 - ・「エコたき」が良いフレーズで、内容的にもいろいろな人に浸透しやすいため、学生に対する啓発につなげていけないだろうか。
 - ・滝川のオリジナル性、滝川の色や独自の取組が何かあれば良い。
 - ・世界共通の話題であるSDGsとのつながりを意識した方が良い。
 - ・WaiWaiフェスタなど長く続くイベントを大事にする。新しいイベントを浅く薄く取り組むのではなく、既存のイベントを深く掘り下げて取り組むことで、「滝川市と言えばこのイベントで有名だよ」ということにつながる。まずは既存のイベントごとの周知に力を入れるのが良いのではないか。
 - ・一番大事なポイントはリーダーの存在であり、活動されている方を表面化してリーダーになってもらえる人を見える化させたり、養成していくことが大事ではないか。取り組むリーダーが少ないと負担が偏るので、負担を少なくするためにも必要。
 - ・滝川高校が環境教育・環境学習をとおしてリーダーの養成を行っている。異年齢と学ぶ機会が重要だと考えているので、高校生が小学校に行き、小学生に教えたり、一緒に学ぶ機会を設ければ良い。
 - ・滝川市と言えば環境に力を入れているという認知が広がるような何かがある。例えば、マイボトルの普及でも地元の企業とコラボして滝川のオリジナルブランドを立ち上げたりできないだろうか。新十津川町や南富良野町はアウトドアブランドを立ち上げている。アウトドアブランドは環境普及に力をいれており、インパクトが強く惹きつけるものがあるので、そういったところをヒントにして何かできれば良いのではないか。
- ※全体の目標をとおして普及啓発に力を入れる必要がある。

②滝川市環境基本計画における目標（フレーズ）

【生活環境（身近な問題）】

- ・エコは家計にやさしい
- ・ごみを出さない生活
- ・3Rタキカワ
- ・日々の意識付
- ・エコとメリット
→何がメリットなのかどんなところでお得なのかポイントを示す
- ・身近なエコ体験
- ・環境の日
→滝川市独自に環境の日を制定

【地球環境（地球全体の問題）】

- ・温暖化を”自分ごと”に
- ・ゼロカーボン（脱炭素）
- ・環境にやさしいマイボトル
- ・すべての人にマイボトル
- ・日常生活と省エネ・温暖化対策
→温暖化対策だとマクロ的な話に聞こえてしまう。省エネは身近な生活につながるなので、日常生活と省エネ・温暖化対策がつながる内容がほしい
- ・環境問題を「身近」に

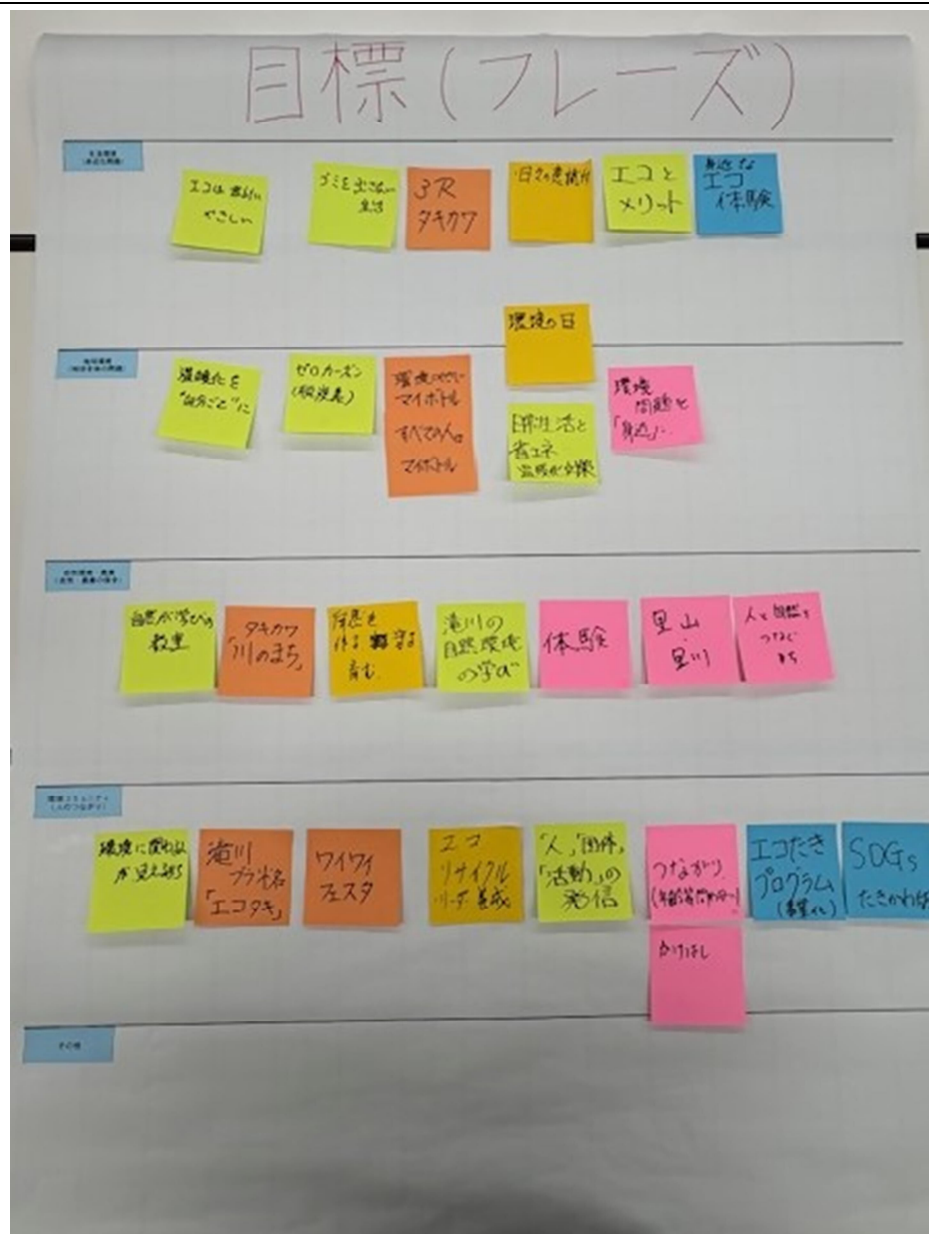
【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

- ・自然が学びの教室
- ・タキカワ「川のまち」
→遠軽「花のまち」のようなイメージ
- ・自然を作る・守る・育む
- ・滝川の自然環境の学び
→河川、丸加高原、雲海など自然環境の学びや活動に参加することが重要
- ・体験
→どんなことでも体験しないとわからない
- ・里山・里川
→滝川市は川のまちなので、川というキーワードを使用したい
- ・人と自然をつなぐまち
→滝川が持つ環境の特性の強みが出てくると良い

【環境コミュニティ（人のつながり）】

- ・環境に関わる人が見えるまち
- ・滝川ブランド名「エコたき」
→滝川のブランド名としてエコたきを使用する
- ・WaiWai フェスタ
→WaiWai フェスタを活用できないか
- ・エコ・リサイクル・リーダー養成
- ・「人」「団体」「活動」の発信
- ・つながり（年齢等問わない）
→高校生が子ども達と交流することも、町内会で自然を学ぶこともつながりになる
- ・架け橋
- ・エコたきプログラム（事業化）
→川の学び、大人向けのごみ分別出前講座など待っているだけでは入ってこない情報を学ぶ・発信する機会の事業化
- ・SDGs たきかわ版
→取り組んでいる内容が SDGs の何番とつながっているか、市民へ浸透させる





※今回のワークショップの内容について、事務局でまとめさせていただいた上で、目標を設定いたします。設定させていただいた目標につきましては、後日、委員の皆様にご意見を募集させていただきます。

4 その他

次回の開催日程について

12月中旬に開催を予定している。詳細は後日調整し、確定したものを皆様にご連絡したい。

5 閉会